



平成 29 年 7 月 14 日

各 位

会 社 名 シンワアートオークション株式会社
代表者名 代表取締役社長 倉田 陽一郎
(JASDAQ・コード2437)
問合せ先 経理部長 益戸 佳治
電話番号 03-5537-8024
(<http://www.shinwa-art.com/>)

平成 29 年 5 月期 通期の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

平成 28 年 7 月 13 日に公表いたしました平成 29 年 5 月期（平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日）の業績予想値と、本日公表の実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想値と実績値との差異について

平成 29 年 5 月期通期連結業績予想数値と実績値との差異
(平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	4,299	417	382	225	円 銭 39.29
実 績 値 (B)	5,348	364	303	166	28.13
増 減 額 (B-A)	1,048	△52	△79	△58	—
増 減 率 (%)	24.4	△12.6	△20.8	△26.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 5 月期)	3,898	356	332	164	28.69

<差異の理由>

エネルギー関連事業におきましては、生産性向上設備投資促進税制の 50%の特別償却を目的とした需要により、50kW 級の低圧型太陽光発電施設の販売数が順調に推移し、税制優遇措置を受けられる期限の平成 29 年 3 月末までに 114 基を販売いたしました。翌月以降は、需要の伸び悩みを予想しておりましたが、利回りに着目した需要が根強くあり、当連結会計年度は、合計で 193 基の販売、売上高 4,421 百万円と当初販売予定数よりも大幅に積み増すことができました。

しかしながら、オークション関連事業におきましては、主力の近代美術の分野で市場全体の流通量が激減し、オークション関連事業の実績が、取扱高、売上高ともに当初予算に対して大きく未達となりました。

以上のとおり、エネルギー関連事業の売上増により、売上高は前回発表予想値を上回ったものの、営業利益面においてはオークション関連事業のマイナス分をカバーしきれず、またエネルギー関連事業における資金需要増、金利負担増もあり、経常利益の減となりました。これは主な売上高の内容が、エネルギー関連事業は太陽光発電施設の販売、オークション事業は手数料収入であることによるものであります。

2. 個別業績予想値と実績値との差異について

平成 29 年 5 月期通期個別業績予想数値と実績値との差異
(平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	1,120	93	50	円 銭 8.80
実 績 値 (B)	1,631	35	30	5.14
増 減 額 (B-A)	511	△57	△20	—
増 減 率 (%)	45.7	△61.7	△39.8	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 5 月期)	1,117	84	44	7.75

<差異の理由>

オークション関連事業の領域では、欧米のオークション市場において、世界的にも評価の高い一部の美術品について高額取引が成立しているものの、世界のアート市場全体としては、縮小傾向にあるという報告もあり、そのような中、国内美術市場にあっては、未だにデフレ経済の影響を引きずっており、その傾向は、特に高価格帯の作品について顕著であります。

当事業年度は、古美術やワイン等の一部のオークションで、今後も継続が期待できるような好成績を上げることができたものの、近代美術の分野では市場全体の流通量が激減し、平成 28 年 7 月開催の近代美術オークションの実績が、取扱高、売上高ともに当初予算に対して大きく未達となった他、年度を通じて出品作品の募集環境が一層厳しさを増しており、当事業年度の当社オークション事業全体の出品点数は、前年比 10.7%減の 4,884 点、落札率は前年比 1.8 ポイント減の 89.6% (いずれも子会社開催の Bags/Jewellery & Watches オークション分を除いた数値で比較しております。) となりました。その結果、当社オークション事業の取扱高は、前年比 26.0%減の 2,439 百万円、売上高は前年比 21.1%減の 534 百万円となりました。

これらのオークション事業の不足分を補うために、精力的に多くのプライベートセール案件に取り組んだことに加え、50kW 級の低圧型太陽光発電施設の開発・販売にも取り組みました。その結果、売上高につきましては、前回発表予想値を上回る 1,631 百万円となりましたが、利益面ではオークション関連事業のマイナス分をカバーしきれず、経常利益及び当期純利益につきましては、前回発表予想値を下回る結果となりました。

以 上